

第1回 生活環境懇話会（日本熱物性学会研究会）報告

オーガナイザー： 諸岡晴美（富山大）、吉田篤正（大阪府大）、
山田 純（芝浦工大）、薩本弥生（横浜国大）、井上真理（神戸大）

身の回りの多様な現象と身近なモノの性質についての話題を中心に、異分野の研究者・技術者が広い視野に立ち、新しい研究の萌芽を見出すこと、新しい研究仲間を見出すこと等を目的とした新しい研究会が6月2日に京都大学工学部で開催されました。参加人数は、オーガナイザーの心配をよそに、研究会出席者33人、懇親会出席者23人と多く、大変盛会裏に終えることができました。

研究会では、以下の3件の話題提供が行われました。

1. 「日常生活に役立つ公開・出前講座の紹介」 永井二郎（福井大学）
2. 「触って見たら何が分かる？」 高橋一郎（山形大学）
3. 「浴室を暖かく！ 駐車場には樹を植えよう！」 牧野俊郎（京都大学）

一見、機械工学の先生方と市民出前講座とは結びつかないのですが、永井先生のお話から、出前講座のネタがたくさんあることを学びました。「泡」や「天ぷら油と水」など楽しい話題についてお話下さいました。高橋先生は、自ら開発されました「固体熱物性テスター」の応用例についてお話下さいました。ジェットコースターなどの金属疲労や劣化の検査に役立てば、先日のような悲惨な事故が防止できるのではないかと思います。牧野先生は、浴室を暖かくする簡単な工夫や冬に車のフロントガラスがなぜ凍るのかを通して輻射についてわかりやすく説明して下さいました。”Think Globally, Act Locally!”を感じるひとときでした。

話題提供中の質問も OK というリラックスした雰囲気の中、お茶やお菓子をいただきながらのディスカッションは、学会とは違う和やかさがありました。参加者の方から「次回も参加し



たい」「次回は話題提供者に」との声が多く、主催者としては大変嬉しく思いました。

ただ今回は、やや時間が短かったため不燃焼気味であったことも否めませんでした。しかし、立食形式の懇親会では色々な方とお話ができ、新しい輪が広がったように思います。

次回はさらに討論が白熱できるよう研究会内においても十分な時間をとりたいと思っております。今回参加できなかった方には、次回、学生さんもお誘いの上ぜひご参加下さい。 （諸岡記）